



にししやう

西小だより



HPはこちら→

「強く 正しく 健やかに」 令和6年 12月6日(金) 第12号 校長 都外川 潔

子どもの権利条約

先日、本校では人権集会を行いました。自分の中にもある偏見や思い込み、差別意識に気づき、互いのちがいを受け入れながら生活することの大切さを意識することを目的として行いました。

その中で、「子どもの権利条約」について知らせ、子どもたちには、特に大切にしたいことについてそれぞれ考えてもらいました。また、これらの条約については、私たち大人が意識して子どもたちに接することが、とても大切だと思います。

「子どもの権利条約」から、いくつか紹介します。※表現は小学生用に簡易化しています。

第2条【差別の禁止】どの子ども、みんな平等です。どこの国に住んでいても、男の子でも女の子でも、体が元気で障害があっても、みんな同じように大切にされなくてはなりません。

第3条【子どもに一番いいこと】子どものために何かを決めるときは、いつもその子どもにとって、一番いいことを考えなければいけません。

第19条【暴力からの保護】子どもが誰かに叩かれたり、いじめられたりしないように、大人たちは守らなければいけません。



人権集会では、私は次のような話をしました。

私の子どもは、今は、社会人として自立し、前年度の秋には、西小で瑞宝太鼓の一員として、太鼓の演奏を披露してくれました。でも、幼稚園の頃は、会話がうまくできませんでした。例えば、「何が食べたい？」と聞かれたら、「カレーがいい。」とか答えるのが会話ですが、私の子どもは「何が食べたい」と同じ言葉を言うことしかできませんでした。広汎性発達障害という障がいがあるため、発達がゆっくりしていたのです。私も小さい頃、言葉がうまく話せなかったそうなので、私も何かの障がいはあるんだろうなと思っています。

こんなことがありました。幼稚園の運動会でお昼のお弁当を家族で楽しくいただいていた時、一人の女の子がやってきて、私の子どもを指差して、「あのね、この子おもしろいんだよ。私が言ったとおりのことを言うの。」…私は、「うん、家族だから知ってるよ。」と答えたのですが、内心かなりショックだったことを覚えています。たぶん、あの女の子は、自分が言った言葉など全く覚えていないだろうなと思います。また、幼稚園では、何人かの子どもが私の子どもを取り囲んで、誰が言った言葉を私の子どもが真似して言うか遊んでいたそうです。その子どもたちも、ただ「おもしろいから」という気持ちしかなかったんだろうなと思います。

こう言っている私も、これまでの人生の中で、知らないうちに人の心を傷つけたことがあったのではないかと考えています。校内で子どもたちのトラブルに出会い、「どうしたの？」ときくと、必ず「だって〇〇くんが…」と、まず相手のよくないことだけを言います。人は誰も「自分を守りたい」という本能があるので仕方ないとは思いますが、よくよく話を聞くと、相手が怒るようなことをするなど、きっかけとなることをしていた…と気づくことも多いです。学校は、人間関係を学ぶ場でもあります。争いごとが起こったときに、「まてよ。自分の行いにも、何かよくないところはなかったかな？」と、自分を見つめることが大切だと、私は思っています。